

**オムロン株式会社 2016年度3Q決算
投資家様向け説明会 質疑応答(サマリー)**
(2017年1月31日、東京)

◆ 全社業績・経営・戦略関連

Q: 3Q累計の付加価値額が前年同期比で109億円伸びている理由は？

A: 売上総利益率に拘り、各事業で付加価値利率を向上させていることが大きい。また、ポートフォリオマネジメントによる事業ユニットの入れ替えの成果も出ている。

Q: 販管費、研究開発費を過度に抑制していないか？

A: 過度に抑制していないが、3Qから4Qにかけて一部経費の期ズレはあった。必要な投資は執行している。また、追加投資を4Qに実行することで、将来の成長をより確かなものにしていく。

Q: 多くの取締役、執行役員が入れ替わる人事異動をこのタイミングで行う理由は？

A: 4月からの新しい中期計画に向けた区切りであること、また、内規に基づく人事異動であり、他意はない。

◆ 制御機器事業 (IAB) 関連

Q: 中国での成果が上期よりも拡大している理由は？

A: デジタル業界での伸びが前年同期比で5割に達し、中国全体の業績を牽引した。また、食品業界、自動車業界向けも好調だった。お客様の課題解決に向けた取り組みを積み重ねたことで、お客様から信頼を獲得しているという手応えを強く感じている。

Q: 米国の政権交代により米国における生産拡大が予想される。これはポジティブな要素か？

A: ポジティブな要素と認識している。制御機器事業は西海岸で3社の会社を買収しており、事業活動がローカルに根差していることから、価値提供の質も高く、米国の生産が活発になるのはチャンスとなる。

Q: 4Qの営業利益の見通しが3Q実績から低下する理由は？

A: 将来に向けた先行投資として販管費、研究開発費を増やしている影響が大きい。

◆ 社会システム事業 (SSB) 関連

Q: 4Qの営業利益の見通し74億円の実現性は？

A: 3月末まで残り数カ月の時点で立てた見通しであり、数値の精度は高く、実現性は高い。鉄道、道路交通というお客様の関係上、毎年3月に売上高、営業利益が急拡大する季節性であり、今年特有のものではない。

◆ 本社直轄事業 (その他事業) 関連

Q: 4Qの営業利益の見通しが赤字になる理由は？

A: 売上高の減少に伴う付加価値減による影響が大きい。4Qに売上高、営業利益が下がることは2Q時点で見通しており、現状もその想定から変更はない。
